



地域で一番身近で 愛される企業へ



2019年3月12日
ヤマト運輸株式会社

ヤマトグループの概要 (2018年3月末現在)

資本金	: 1,272億円	創業	: 1919年11月29日
営業収益	: 1兆5,388億円	グループ従業員数	: 21万3,096人
経常利益	: 360億円	拠点数 (直営)	: 約4,000拠点
宅急便取扱い個数	: 約18億個		

ヤマトホールディングス

デリバリー事業

(1兆2,017億円)

宅急便・クロネコDM便を中心とした
小口貨物輸送事業および国内の航空貨物輸送事業

B I Z-ロジ事業

(1,219億円)

ロジスティクス事業を中心に、海外現法と連携し
「モノ」の流れと保管に関するサービスを提供

ホームコンビニエンス事業

(489億円)

引越事業、家具・家電の配送・設置事業、
食料品等の生活必需品の販売事業を展開

e-ビジネス事業

(464億円)

情報システム開発・システムパッケージ販売を
展開。グループを支える知見を内外に提供

フィナンシャル事業

(829億円)

物流における商品配達時の代金回収・決済に
関する事業や総合リース事業を展開

トラックメンテナンス事業

(246億円)

車両整備事業、車両管理システムや各種保険を
トラック・バス事業者向けに提供

その他事業

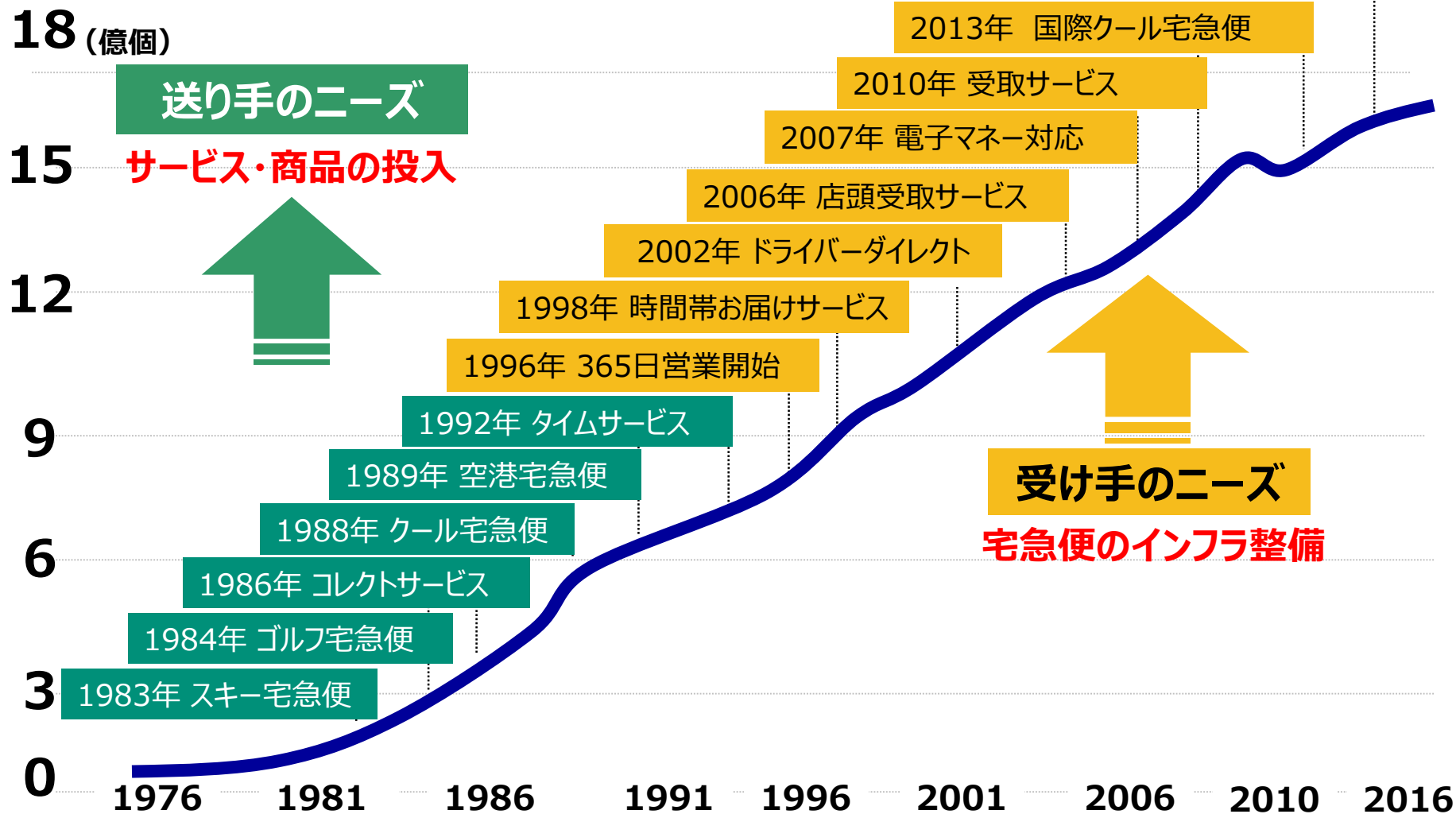
(121億円)

中長距離の幹線輸送事業などグループの事業を
集約・統一したシェアードサービスを提供

宅急便の成長

送り手・受け手双方の便利を追求した価値創造により、
年間18億個のインフラにまで成長させていただいた

2015年 クロネコDM便・宅急便コンパクト・ネコポス



社会・地域課題解決への 取組み



社会・地域課題解決

社会・地域課題に対し、経営資源と先端技術、ICTも融合した解決方法を検討、実証

社会的課題

少子・高齢化の加速

地域一次産業の衰退

自然災害への対応

地域経済の低下・小売店舗の減少

ヤマト
グループの
経営資源



ヤマト運輸：集配業務を通じた圧倒的な対面接点



地域に精通した
セールスドライバー



ヤマトグループの
IT・LT・FT 機能
情報 物流 決済



宅急便の
ネットワーク

先端技術

支援モデル

生活支援

災害時支援

販促支援

観光支援

その他支援

目指す姿

安全・安心に暮らせる
生活環境の実現

地域経済の活性化

社会・地域課題の解決

客貨混載 1 <<地域交通の維持と生活支援>>

地方における公共交通路線網の維持と、物流の効率化によるサービス向上、地域支援のため、公共交通機関で宅急便を輸送する「客貨混載」を推進

バス

北海道

岩手県

長野県

福井県

兵庫県

和歌山県

徳島県

熊本県

等々

宮崎県



バスの外観



バスに設置した
荷台スペース

鉄道

岐阜県

京都府

和歌山県



過疎地域では・・・ +お買い物便+見守り支援

- 買い物の不便さを解消するとともに、地域商店の活性化に貢献
- 商品お届け時、異変があった情報を行政に連絡

サービス実施概要

【自治体】高知県大豊町

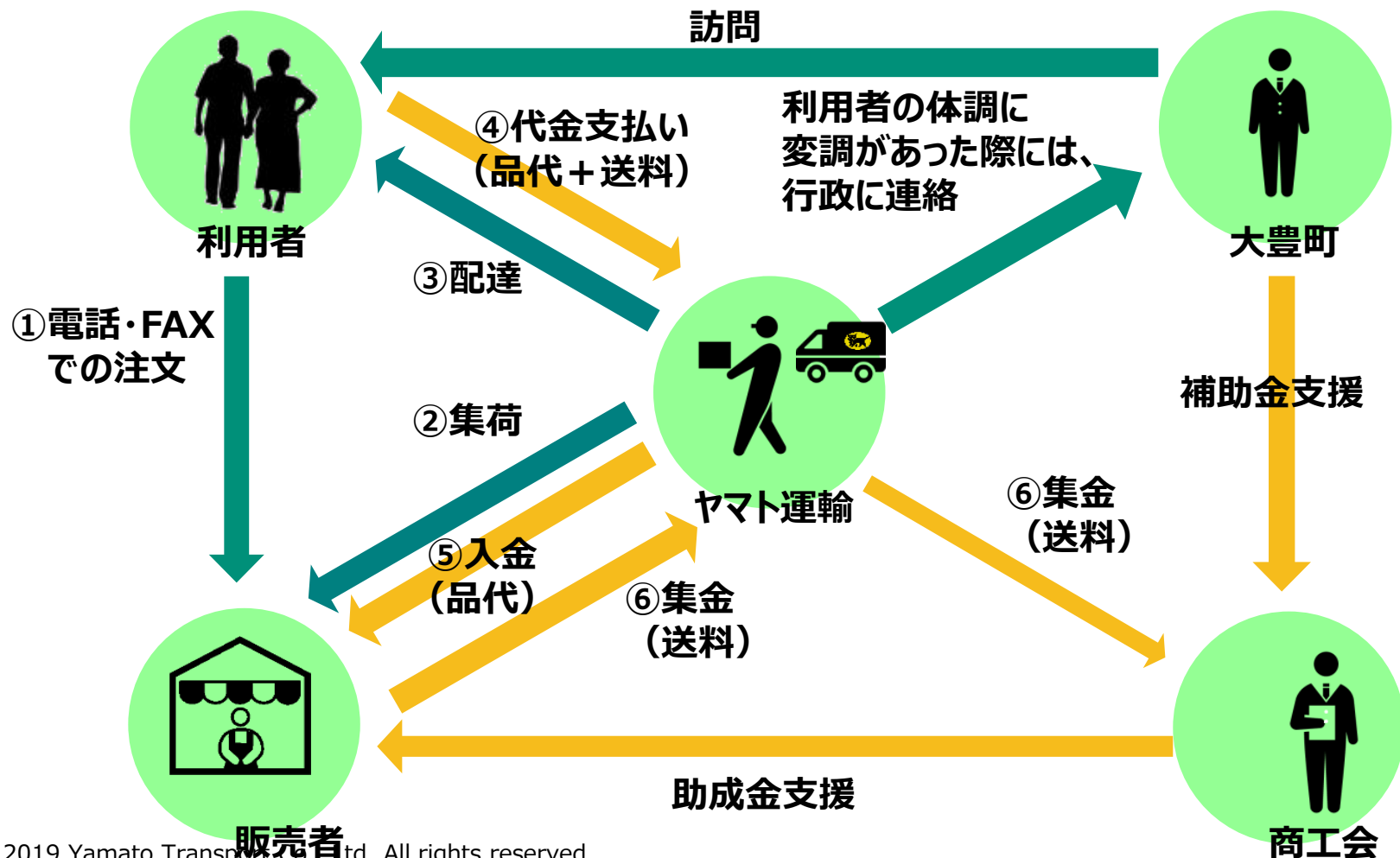
【現状】2012年11月から取り組みをスタートし、現在11店舗が参加
月間約100件以上の活用実績



お買物便配達時の見守り支援

- 商品をお届けする際に、健康状態も確認。その情報を関係部署と連携
- リアルタイムの情報を知ることによって、行政側も迅速に訪問対応が可能

高知県大豊町での貨客混載フロー



客貨混載 2 ≪観光と地域活性化支援≫

重い荷物を持ったまま移動することなく、身軽に観光が可能
事前Web申し込みにより、インバウンドにとってネックとなる不便や不安を解消

サービス実施概要

【自治体】兵庫県城崎温泉地域 2018年12月出発式

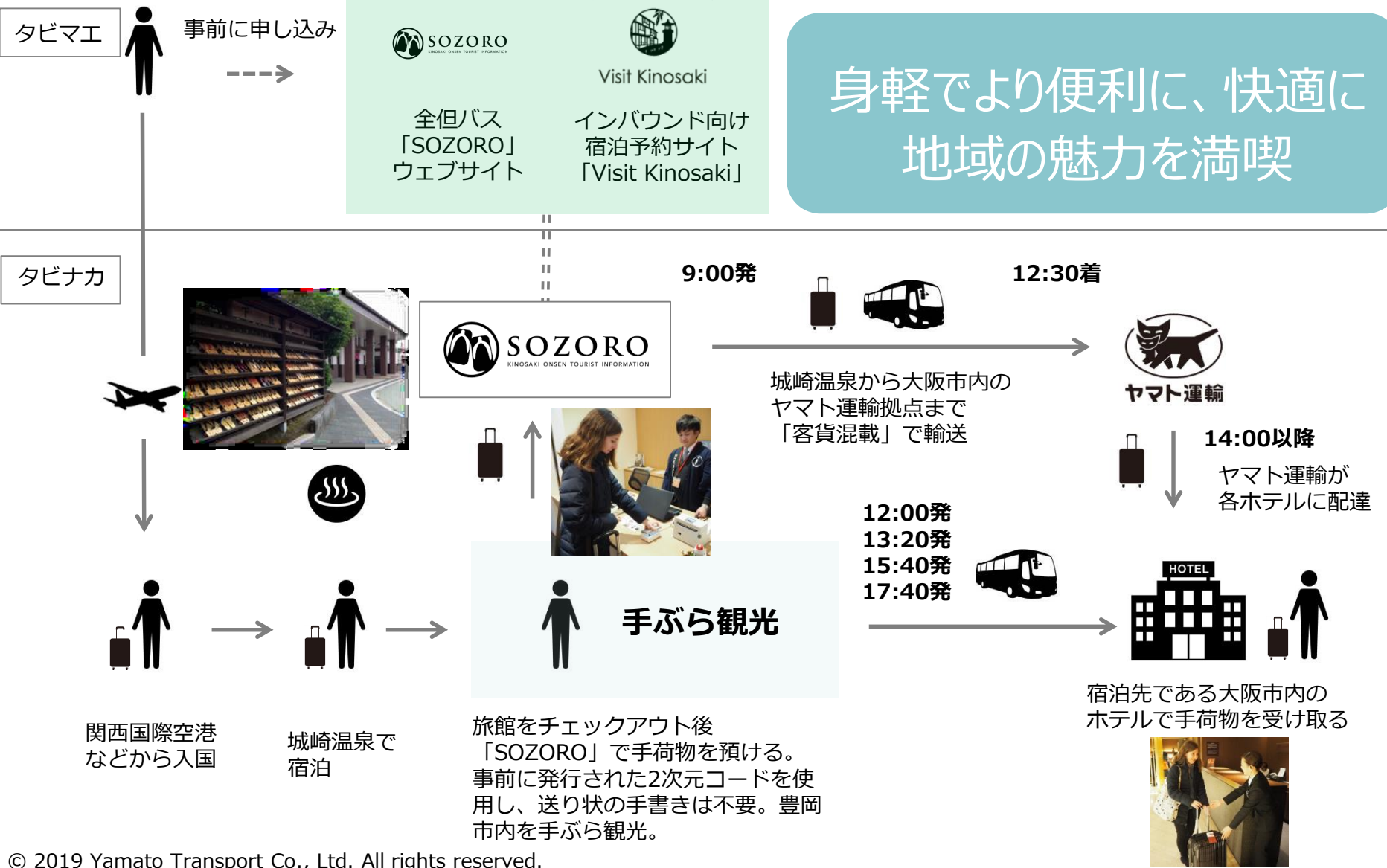
- ①多言語対応：事前申込で、母国語等での対応可能
- ②キャッシュレス：事前決済のため、現地（国内）での現金が不要
- ③送り状記入レス：宅急便に必須である、送り先情報の手書きが不要
- ④心配レス：①②③含め、現地（国内）での確認等の心配が不要



客貨混載 2 <<観光と地域活性化支援>>

城崎温泉地域での貨客混載フロー

身軽でより便利に、快適に
地域の魅力を満喫



近未来の生活支援「Next Delivery SQUARE」

- 双方向コミュニケーションによる全国初の戸建て一括配送
- スマートテレビやエコに関する先端技術を活用したスマートタウン



ラストワンマイルのオンデマンド化

「送る」の進化



「受取る」の進化

物流と先端技術、ICTとの融合で「On-demand 1 mile」の実現を目指す

On-demand 1 mileとは

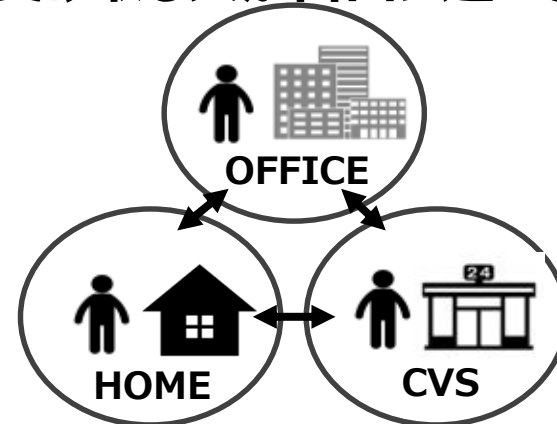
生活者が
望む「とき」に、望む「場所」で、望む「方法（スタイル）」で
「安心」「安全」に、受け取ることの実現

「自宅での受け取り」



Last 1mile

「受け取る人が自由に選べる」



“Anytime & Anywhere”

On-demand 1mile

将来的な無人運転を目指した実証実験を実施

2017年より、ロボネコヤマトプロジェクトとして、
藤沢市の一部で将来的な無人運転を目指した実証実験を実施

生活者が 望む「とき」に、 望む「場所」で、 望む「方法（スタイル）」で、「安心」「安全」に、受け取ることの実現

クロネコメンバーズ

お受け取り方法の選択

 **ロボネコデリバリー**で依頼

ロボネコデリバリーはご希望の時間と場所で荷物を受け取ることができる新しいサービスです。

[詳細ページへ](#)



4月15日(土)の受け取れる時間

> 9:00 -

09:00 - ×	09:10 - ×	09:20 - ○
09:30 - ○	09:40 - ○	09:50 - ○

> 10:00 -



オープン型宅配ロッカー

自宅外の受け取りチャネルの拡大と、スマートフォンから受け取り場所・時間を自由に選べるインフラの構築

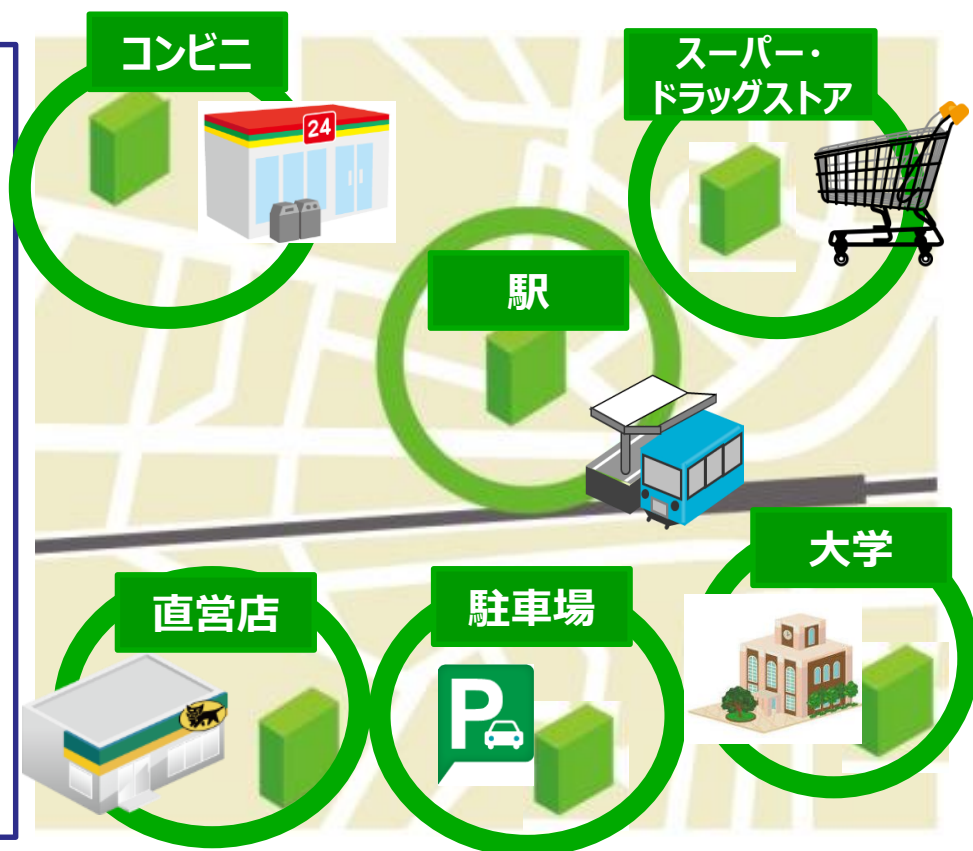
生活者が 望む「とき」に、 望む「場所」で、 望む「方法（スタイル）」で、「安心」「安全」に、受け取ることの実現

◆ PUDOステーション

- ・複数の宅配事業者が利用可能なオープン型宅配便ロッカー
- ・2016年7月より設置開始

設置

2019年2月末
設置台数
約3,700台



オープン型宅配ロッカー

◆PUDOステーション効果と意義◆

※参考数値等

利用者にとって

「受け取りたい時間」に「受け取りたい場所」で受け取れる為、利便性が大きく向上し好印象をいただく。

- ・オープン型宅配ロッカーを設置した施設の利用頻度について、受取りに行くので利用するようになると思う。 → **6割超**
- ・オープン型宅配ロッカーを設置した施設は施設利用者の利便性向上に配慮している。 → **6割超**
- ・オープン型宅配ロッカーを設置した施設は社会課題解決に貢献している。 → **5割超**
- ・オープン型宅配ロッカーを利用した方が設置施設で買い物を行った。 → **4割超**

地球環境にとって

- ・CO2排出量の削減となる。 → **CO2排出量は再配達1個当たり0.585kg余分に排出**※国土交通省検討会の試算

社会にとって

- ・再配達による社会的損失である、労働力ロスの防止となる。
→ **再配達に費やしている労働力年間1.8億時間 9万人相当**※国土交通省検討会の試算